

## 四模試の志願者数による2016年入試予想

## 私立中高一貫校 東京・神奈川のみ

### (1) 学校ランクと学校種別

(D・F・G・Hランクの男子校とG・Hランクの女子校は、志願者数1,000人未満で参考データ)

●比較的良好(前年対比は100%、差は5%以上) 例: **102.7%**  
 ●比較的悪い(前年対比は90%、差は-5%未満) 例: **88.4%**

#### 2016年入試の受験者数前年対比の予想 <2016年受験者数前年対比の予想>

学校ランク	学校種別			
	男子校	女子校	共学校	合計
A	101.4%	94.7%	122.6%	102.6%
B	97.3%	83.2%	119.0%	96.1%
C	101.6%	95.2%	113.5%	104.6%
D	92.9%	82.3%	93.3%	89.4%
E	77.1%	165.8%	106.8%	110.3%
F	68.2%	86.5%	83.2%	84.3%
G	100.6%	93.2%	81.0%	89.9%
H	62.7%	117.9%	114.0%	106.5%
合計	97.5%	92.9%	106.7%	99.0%

#### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

学校ランク	学校種別			
	男子校	女子校	共学校	合計
A	103.8%	98.0%	129.4%	108.3%
B	99.6%	86.1%	125.6%	101.4%
C	104.0%	98.5%	119.8%	110.4%
D	95.1%	85.1%	98.5%	94.3%
E	79.0%	171.4%	112.7%	116.4%
F	69.8%	89.5%	87.8%	89.0%
G	103.0%	96.4%	85.5%	94.9%
H	64.2%	122.0%	120.4%	112.4%
合計	99.8%	96.1%	112.6%	104.5%

※学校ランクは、四谷大塚の偏差値で、A65以上、B64~60 C59~55 D54~50 E49~45 F44~40 G39~ Hは、非エントリー校に分類しました。また、学校種別は、男子校、女子校、共学校に分類

#### <2016年受験者数前年対比の予想>

昨年の「日能研と首都圏模試の同時受験日の影響」「四模試を受験する頻度が少ない生徒が増えてきた影響」を加味して2016年受験者数前年対比を予想しました。昨年のサンデーショックによる影響は、今年四模試志願者数前年対比がその反動で減少したことで打ち消されていますが、反動の方が大きく女子校の合計予想は大幅な減少となっています。

2015年9月の四模試志願者数前年対比は95.4%で大幅な減少なのですが、2016年受験者数前年対比の予想は99.0%の微減で、1.0ポイントの微減となりました。9月四模試受験者数は、合計では102.0%の増加でしたので、2016年入試で受験者数前年対比の予想99.0%とは3.0ポイントもの大きな差があります。原因は、2015年9月の四模試の一人当たりの受験数が大きく減少した点にあります。おそらく、2016年入試の受験者数にもこの影響があり、受験者数は⑦のようになると予想されます。

⑦を見ると学校ランクでは、B・D・F・Gランクで減少しており、特に、D・F・Gランクは10ポイント以上の大幅な減少です。他のA・C・E・Hランクは増加になっています。

学校種別では、やはり、女子校がサンデーショックの反動で受験者数前年対比が92.9%で7.1ポイントも減少する予想ですが、サンデーショックには関係のない男子校でも2.5ポイントも減少するのは意外でした。男子校は、サンデーショックの影響を受けないので、97.5%の予想で良いはずですが、2015年9月の男子の四模試受験者数前年対比が102.3%であったことを考えると、2016年入試では一人当たりの受験者数は急激に減少すると考えられます。共学校は、2015年入試の受験者数前年対比は102.2%と女子校ほどではありませんでしたが、サンデーショックの影響で増加しました。2016年入試予想では106.7%となっており、サンデーショックの反動を上回る増加が見られます。

マトリックスを見ると、女子校はサンデーショックの反動で、B・D・Fランクは顕著な減少となる予想です。Eランクは大幅な増加となっていますが、この原因は青山学院横浜英和で、2016年入試では受験者数がそれほど増加するとは考えにくく、横ばいとなると思います。共学校が増加している要因はA・B・C・Hランクの大幅な増加によるものと予想します。

#### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

一人当たりの受験数が減少することで、16年入試の受験者数前年対比は99.0%と微増となります。しかし、模試の受験者数は増えていることから、16年入試に参加する生徒は増えることになりそうです。「一人当たりの模試志願校数を昨年並み」としたとき、「2016年受験者数前年対比の予想」のイメージを表にしてみました。

2016年受験者数前年対比は、合計では104.5%で、増加となっています。男子校は横ばいですが、女子校は4ポイント弱の減少で、共学校の増加が

## (2)所在地と学校種別

(18多摩地区の男子校は、志願者数1,000人未満で参考データ)

### 2016年入試の受験者数前年対比の予想 <2016年受験者数前年対比の予想>

		学校種別			
		男子校	女子校	共学校	合計
所在地	14神奈川	96.0%	110.1%	105.5%	102.8%
	16北東部東京	94.9%	99.9%	99.3%	97.1%
	17北東部以外の23区	99.1%	87.2%	116.8%	98.1%
	18多摩地区	99.4%	83.4%	99.7%	96.9%
	合計	97.5%	92.9%	106.7%	99.0%

### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

		学校種別			
		男子校	女子校	共学校	合計
所在地	14神奈川	98.3%	113.9%	111.4%	108.5%
	16北東部東京	97.2%	103.3%	104.8%	102.5%
	17北東部以外の23区	101.5%	90.2%	123.2%	103.6%
	18多摩地区	101.8%	86.3%	105.3%	102.3%
	合計	99.8%	96.1%	112.6%	104.5%

### <2016年受験者数前年対比予想>

所在地では、14.神奈川だけは2.8ポイント増加しますが、14.神奈川以外は、受験者数が減少する予想となりました。学校種別は(1)を参照してください。

また、マトリックスでは、共学校の増加原因を14.神奈川と17北東部以外の23区と予想しました。神奈川的女子校が増加となった原因は、2015年入試では青山学院横浜英和の受験者数が59→403名と大幅に増加したため、2016年入試では増加しない可能性の方が大きいのですが、他のデータに影響があるため補正できません。

### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

実際には、このような前年対比にはなりません、2016年受験者数前年対比は、所在地全体が増加となり、学校種別は共学校が顕著に増加するイメージです。

マトリックス内では、14.神奈川と16.北東部東京の男子校と、17北東部以外の23区と18多摩地区の女子校だけが減少しますが、その他はすべて、増加となるイメージです。

## (3)所在地と付属校・進学校・半付属校

(16北東部東京の付属校と18多摩地区の半付属校は志願者数1,000人未満で参考データ)

### 2016年入試の受験者数前年対比の予想 <2016年受験者数前年対比の予想>

		付属校・進学校・半付属校			
		付属校	進学校	半付属校	合計
所在地	14神奈川	109.7%	102.2%	89.6%	102.8%
	16北東部東京	92.9%	97.5%	94.1%	97.1%
	17北東部以外の23区	115.4%	97.2%	86.7%	98.1%
	18多摩地区	109.7%	84.8%	90.7%	97.9%
	合計	111.7%	97.9%	88.3%	99.0%

### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

		付属校・進学校・半付属校			
		付属校	進学校	半付属校	合計
所在地	14神奈川	115.8%	107.9%	94.6%	108.5%
	16北東部東京	98.0%	102.9%	99.3%	102.5%
	17北東部以外の23区	121.8%	102.6%	91.5%	103.6%
	18多摩地区	115.8%	89.5%	95.7%	103.3%
	合計	117.9%	103.3%	93.2%	104.5%

### <2016年受験者数前年対比予想>

付属校では受験者数前年対比が大幅に増加し、進学校では多少減少し、半付属校では大幅な減少となると予想しました。

マトリックスでは、付属校の増加要因は、16北東部東京以外で、16北東部東京は、受験データ数が少ない参考データとなっています。半付属校の減少要因はすべての所在地で見られます。進学校の減少要因は18多摩地区が大きく、14神奈川は減少を少なくする要因となっています。

### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

実際には、このような前年対比にはなりません、2016年受験者数前年対比は、付属校と進学校が増加となり、半付属校は顕著に減少するイメージです。

マトリックス内では、付属校は16北東部東京を除くすべての所在地で顕著に増加し、進学校は18多摩地区を除くすべての所在地で増加し、半付属校はすべての所在地で減少するイメージ

#### (4)所在地と学校ランク

(14神奈川県と18多摩地区のGHランクは、志願者数1,000人未満で参考データ)

##### 2016年入試の受験者数前年対比の予想 <2016年受験者数前年対比の予想>

		学校ランク				
		AB	CD	EF	GH	合計
所在地	14神奈川県	99.9%	97.2%	119.4%	111.4%	102.8%
	16北東部東京	106.1%	86.2%	89.8%	96.6%	97.1%
	17北東部以外の23区	96.2%	97.8%	95.8%	120.3%	98.1%
	18多摩地区	114.8%	96.6%	86.4%	100.8%	96.9%
	合計	99.1%	97.6%	99.2%	106.2%	99.0%

##### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

		学校ランク				
		AB	CD	EF	GH	合計
所在地	14神奈川県	105.5%	102.6%	126.0%	117.6%	108.5%
	16北東部東京	112.0%	91.0%	94.8%	102.0%	102.5%
	17北東部以外の23区	101.5%	103.2%	101.2%	127.0%	103.6%
	18多摩地区	121.2%	102.0%	91.2%	106.4%	102.3%
	合計	104.7%	103.0%	104.7%	112.2%	104.5%

##### <2016年受験者数前年対比予想>

学校ランクでは、GHランクが5ポイント以上の顕著な増加となる予想ですが、AB・EFランクはほぼ横ばいで、CDランクは減少と予想しました。

マトリックスでは、14神奈川の増加予想の要因としてEF・GHランクがあります。16北東部東京の減少要因はCD・EFランクで、17北東部以外の23区の減少要因はAB・CD・EFランクで、18多摩地区の減少要因はCD・EFランクと予想しました。

##### <一人当たりの模試志願校数を昨年並みとした予想>

2016年受験者数前年対比は、すべてのランクで増加となり、GHランクは顕著に増加するイメージです。